

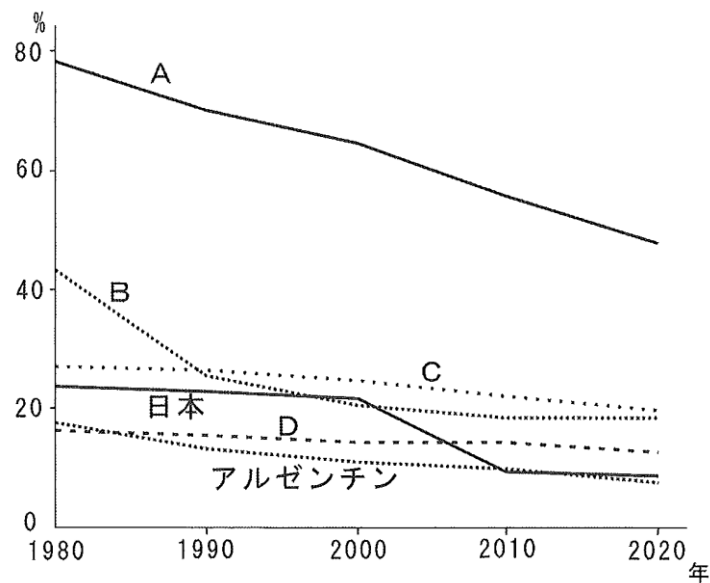
強者の戦略

2025 年度 京大地理 第4問〔問題編〕

今回は 2025 年度の京都大学の第4問を解説したいと思います。農業・人口・社会が絡み合った不思議な問題です。ただ、しっかりとした学習量があれば、高得点が取れると思います。ぜひチャレンジしてみてください。

IV 地理探究問題

農村人口の動向はさまざまな経済や社会の変化と結びついてきた。次のグラフは、アルゼンチン、韓国、ナイジェリア、日本、ニュージーランド、フランスの6か国における、農村人口が総人口に占める割合の変化(1980～2020年)を示したものである。以下の問(1)～(6)に答えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。字数制限のある問については、句読点も字数に含めよ。



資料：FAOSTAT (<https://www.fao.org/faostat>)

強者の戦略

問

- (1) アルゼンチンでは、長く続いてきた農牧場の経営のありかたが農村人口の割合を小さくする要因の一つとなっている。この農牧場の経営とは何か、答えよ。
- (2) 日本では、農村人口の減少により引き起こされる社会問題を過疎と呼んできた。人口減少が農村の暮らしに与える影響について、解答欄①に 30 字以内で述べよ。また、過疎に対応する行財政力を持つために、2000 年代に行われた自治体の再編は、農村人口の割合を名目的に低下させたことがグラフに表れている。この再編とは何か、解答欄②に答えよ。
- (3) A国では、農村人口の割合は徐々に低下しているが、農村の貧困や飢餓はなかなか改善されない。次の表はA国における主要作物の土地生産性の変化(1980～2020 年)である。この表から読み取ることのできる、農村の貧困や飢餓が改善されない理由について、30 字以内で述べよ。

	1980 年	1990 年	2000 年	2010 年	2020 年
キャッサバ	100	122	101	127	60
トウモロコシ	100	86	99	141	156
米	100	104	76	93	98
モロコシ	100	89	100	128	101
ヤム	100	101	94	123	75

資料：FAOSTAT(<https://www.fao.org/faostat>)

注：数値は 1980 年の各作物の単位面積あたり収穫量を 100 としたもの。

- (4) B国では 1980 年代に農村人口の割合が急速に低下した。この時期にB国で生じた経済と人口分布の変化について、30 字以内で述べよ。
- (5) C国では加盟している国家連合の方針に基づいて、政府は農業に対する補助ではなく、農家へ直接的な支援を行っている。この国家連合の政策の名称を解答欄①に答えよ。また、この支援策は農家が有する農業生産以外の役割を重視しているが、それはどのような役割か、解答欄②に 20 字以内で述べよ。
- (6) D国とデンマークはともに酪農が盛んな国であるが、生乳の生産量 1000t あたりのバターの生産量(2020 年)は、デンマークが 12.8t であるのに対して、D国は 22.1t である。D国でバター生産の割合がデンマークより高くなる理由について、30 字以内で述べよ。

強者の戦略

2025 年度 京大地理 第 4 問〔解答解説編〕

【解答】

- (1) 大土地所有制
- (2) ①農業共同作業や住民自治、生活インフラの管理が困難となる。(28 字)
②市町村合併(平成の大合併)
- (3) 作物の土地生産性が停滞し、人口増加に食糧増産が追いつかない。(30 字)
- (4) 高度経済成長期を迎え、ソウル首都圏に人口が集中した。(26 字)
- (5) ①共通農業政策 ②環境保全や農村景観の維持を担う役割。(18 字)
- (6) 市場から遠いため、生乳より保存が利くバターが主流となる。(28 字)

【解説】

- (1)大土地所有制はすぐに思いついたと思います。アルゼンチンの大農園はエスタンシア、ブラジルの大農園はファゼンダと呼ばれています。
- (2)①相変わらず文字数設定が少なすぎますね。農山村地域では高齢化と過疎化が進展し、過疎地域の拡大が続いています。高齢化が著しい農村には、生活に必要な道路などのインフラを改修し、維持することが難しくなっている自治体があります。農業の共同作業も行いにくくなり、生産機能の維持が困難となる傾向も見られます。教科書などでは当たり前過ぎて印象に残りにくい内容だったので、書きづらかったんじゃないかと思います。②2000 年代後半くらいは「平成の大合併」をテーマにした問題が結構ありましたが、忘れたころに聞いてくるところに、京大らしさを感じますね。一応、「平成の大合併」に關係する東大の過去問を掲載しておきます。

設問 B 下の表 2 は、三大都市圏内の A 県と地方圏の B 県を取り上げ、2000 年と 2005 年の 2 時点における市と町村の数を人口規模別に示したものである。2000 年から 2005 年にかけて、A 県ではほとんど変化がみられなかったのに対し、B 県では町村の数が減少し、市の数が増加している。こうした違いが生じた理由として考えられることを、下記の語句をすべて用い、3 行以内で述べなさい。語句は繰り返し用いてもよいが、使用した箇所には下線を引くこと。(東大 2009 年)

公共サービス

財政

年齢構成

表 2

人口規模 (千人)	三大都市圏内の A 県				地方圏の B 県			
	2000 年		2005 年		2000 年		2005 年	
	市	町・村	市	町・村	市	町・村	市	町・村
100 以上	14		15		1		1	
50～99	4		2		1		4	
30～49	1	6	2	5	4	1	5	
10～29		10		11	1	16	2	8
5～9		1		1		15		5
5 未満		1		1		25		11
合 計	19	18	19	18	7	57	12	24

『国勢調査』による。

強者の戦略

問題文の「自治体の再編は、農村人口の割合を名目的に低下させた」から考えてみましょう。農村地帯が都市の枠組みに再編されれば、農村人口が都市人口にみなされるようになるため「名目的に」低下したことになると思います。だとすれば、小さな自治体が大きな自治体に再編される「市町村合併」が解答になるでしょう。「平成の大合併」という用語を用いても正解だと思います。

(3) **A**国は農村人口の割合が高めに推移しているので、経済水準の低いナイジェリアと判断できます。ナイジェリアではキャッサバやヤムイモなどのイモ類やトウモロコシ、米、モロコシなどの穀類を自給的に食べています。つまり、表から読み取れる情報は、自給作物の土地生産性が上昇していないことです。1980～2020 年にかけて農村人口の割合は下がっていますが、この期間で総人口は増加し(7376 万人→2.14 億人)、農村人口も増加しているので、増加した人口に見合う自給作物生産ができていないことになります。このことが原因で、農村の貧困や飢餓が改善されない状況になっています。

(4) 「農村人口の割合が急速に低下した」状況を考えましょう。おおよそ、こういう状況になる時は、国全体の経済成長が著しく、都市部や工業地帯などの産業が発達した地域へ農村から人口が流入する現象が起きがちです。1980 年代に高度経済成長時期を迎えてそのような国は、選択肢からナイジェリアを除くと、フランス、ニュージーランド、韓国の中では韓国に該当します。となれば、韓国はソウルの首都圏への人口集中っぷりが激しいことを想起し、その内容も書き足しておきましょう。

(5) ①②「加盟している国家連合」から **C**国はフランスと判断でき、共通農業政策がテーマになっていることも分かると思います。ただ、やはり聞き方が難しいです。「農家が有する農業生産以外の役割」とは一体なんぞや？ですよね。教科書には確かに載っているのですが、インパクトが薄すぎてスルーしている人が多いのではないかと思います。東京書籍の『地理探究』のコラムから引用しますと、「農業を環境保全産業として位置づける EU は、フランス西部・南部、イタリア南部など、農業の条件が不利で過疎化が進む地域の農家に対して、所得保障などの助成を行うことで、農村景観の維持に努めている」とあり、共通農業政策は域内の農業保護にとどまらない広がりを見せています。なので、農民としてと共に、農村の景観維持や環境保全を担う役割が課せられているのです。

(6) **A**国～**C**国まで判定できているので、**D**国は残るニュージーランドとなります。この問題は結構典型的な問題の部類に入ると思います。「乳製品、デンマーク、ニュージーランド、バター生産高め」のキーワードから、「市場の近接性」がテーマになっていると見抜きたいところで、できれば、この問題は正解して京大に合格して欲しいですね。デンマークはオランダやドイツ、ポーランドなどのヨーロッパ市場に近く、生乳やチーズなどの生産・輸出を行うことができます。ですが、ニュージーランドは南半球に位置しており、中国、日本、アメリカ合衆国などの北半球市場からは遠く、保存が利きやすいバター生産・輸出の割合が高くなります。『データブック オブ・ザ・ワールド』から、バター統計を引用しておきます。

強者の戦略

⑫バターの生産

(F)

2021	千トン	%
インド	4 789	39.5
パキスタン	1 195	9.9
アメリカ	947	7.8
ドイツ	462	3.8
ニュージーランド	423	3.5
フランス	411	3.4
ロシア	283	2.3
アイルランド	276	2.3
ポーランド	232	1.9
オランダ	218	1.8
世界計	12 111	100.0

⑬バターの貿易

(F)

	2022	千トン	%
輸出	ニュージーランド	451	22.6
	オランダ	330	16.5
	アイルランド	234	11.7
	ベルギー	123	6.1
	ドイツ	120	6.0
	世界計	2 001	100.0
輸入	フランス	237	12.9
	オランダ	178	9.7
	中国	143	7.8
	ドイツ	125	6.8
	ロシア	107	5.8
	世界計	1 845	100.0

ここまで読んでいただいた皆さん、お疲れ様でした。次回は、2025年の京大第5問の解説でお会いいたしましょう。